

「呼吸の日」市民講座、第1回胆沢病院祭を開催

「呼吸の日」とは、呼吸に大切な肺を守るための環境作りを啓発するため、日本呼吸器学会で平成19年度から5月9日を「呼吸の日」、8月1日を「肺の日」と制定しております。東北では平成27年度より、5月9日(呼吸の日)あるいは、8月1日(肺の日)前後の土曜or日曜に「肺の日・呼吸の日」市民講座を開催しており、今年度は岩手県が開催県となり、5月12日(土)に胆沢病院を会場として開催しました。東北大学病院呼吸器内科の一ノ瀬正和教授、山田充啓講師による講演、当院の渋谷呼吸器外科長、鈴木(俊)副院長による肺癌治療の講演のほか、肺年齢測定の無料体験、各種相談コーナーを設け、多くの市民の皆様に参加いただきました。

また、市民講座に合わせて、病気やお見舞いでしか来院することのない市民の皆様にも、当院のことを良く知っていただくこと、「胆沢病院祭」を初めて開催いたしました。手術支援ロボット「ダビンチ」の操作体験や白衣の試着体験、人工呼吸器体験、手洗い教室、体力測定、体内を3D画像で見るなど各部門によるブースを設置し、多くの方々に体験いただいたほか、運用を開始したばかりのヘリポートの見学も行いました。

どのくらい来場いただけるか大変不安でしたが、ダビンチの操作体験に受付開始前から並んでいた小学生から高校生の皆さんを始め、100人を超える来場をいただくことができ、大盛況で幕を閉じることができました。

総務課長 南川 克久



東北大学病院呼吸器内科 一ノ瀬正和教授の講演に耳を傾ける参加者



肺機能の検査など大盛況でした



手術支援ロボット ダビンチの操作体験をする生徒

岩手県立胆沢病院の基本理念

<基本理念>

私たちは、地域の人々の健康と命を守るため、愛を持って地域医療に貢献します。

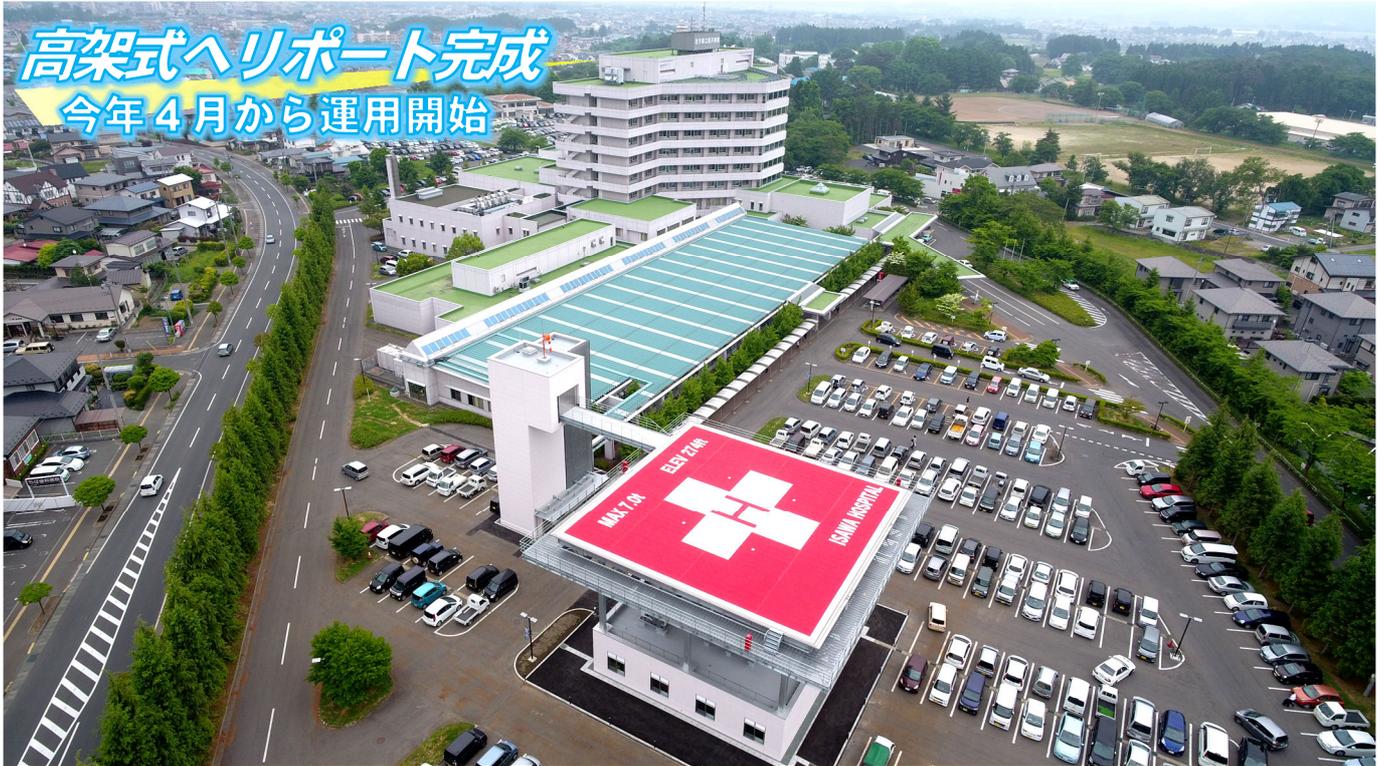
<行動指針>

- 1) 患者さんと家族、私たちとの協働医療(専門性を結集した多職種による、患者参加型のチーム医療)
- 2) 患者さんの背景・価値観に配慮した医療
- 3) 患者さんが安心できる、良質で安全な医療
- 4) 地域の医療・福祉・行政との連携と機能分担
- 5) 次の世代を担う優れた医療人の育成

<病院運営方針>

- 1) 救急医療を含む急性期医療
胆江保健医療圏の基幹病院として、24時間対応の救急医療など、圏内の急性期医療、高度・専門医療を担います。
- 2) がん医療
地域がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアなど専門的ながん医療の提供や、がん患者に対する相談支援・情報提供を行います。
- 3) 地域医療支援
地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の推進、地域医療機関との共同診療、地域の医療従事者・地域住民に対する研修・教育を行います。
- 4) 災害医療
地域災害拠点病院として、災害時の傷病者の受け入れや地域医療機関への支援、DMATチームの派遣を行います。
- 5) 臨床研修、スタッフ教育
臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設として、次の世代を担う医療従事者を育成するとともに、病院スタッフの研鑽に努めます。
上記5項目の実践・充実のため、誇りを持てる職場づくりと健全な病院運営に努めます。

高架式ヘリポート完成 今年4月から運用開始



胆沢病院全景、病院敷地内駐車場に整備した高さ15メートルの高架式ヘリポート



離発着訓練にて、完成した高架式ヘリポートに初めて着陸したドクターヘリ = 4月20日



高架式ヘリポート下部には、会議室、DMAT倉庫、除染シャワー室、診察室などを整備。

当院では新たにヘリポートが整備され、平成30年4月20日より運用を開始しております。このヘリポートは、県の救命救急体制向上のため県内各地に整備を進めているヘリポート整備事業の一つで、胆江地区には当院の敷地に整備することとなり、調査・設計を経て平成29年4月に着工し、平成30年3月に完成、引き渡しとなりました。

高さ15メートルの高架式ヘリポートで、離発着場には融雪設備が施され冬場も使用可能、搬送にはエレベーターを使用します。また、ヘリポート下部には会議室、DMAT倉庫、除染シャワー室、診察室も整備されました。

これまで県立水沢高校のグラウンドから当院へ救急車で搬送していましたが、ヘリポートが整備されたことにより、患者搬送時間が短縮され救命救急医療の向上に大きく寄与するものとして期待できます。

平成30年4月20日に、離発着訓練として岩手県ドクターヘリが矢巾町にあるドクターヘリ基地を飛び立ち、当院のヘリポートに初めてヘリが着陸しました。実際の救急患者の搬送として、平成30年6月14日現在で3件の患者収容をいたしました。当院から他院への搬出を含め、当院ヘリポートへ飛来するヘリの姿を見る機会が今後増加すると思われます。

総務課長 南川 克久

7 階 病 棟



谷地看護師長（前列左から2人目）とスタッフのみなさん

看護師長 谷地 弘幸

7階病棟は、消化器内科が主となる病棟です。特徴としては内視鏡検査・治療が多く、東北でもトップクラスの件数を誇っています。

よって入退院が多く、平成29年度の入院患者数が約2000人、1日の入院が10人を超えることもめずらしくありません。1日中患者さんの入退院や治療等で多忙な病棟ですが、スタッフ間のコミュニケーションは良く、安全を心がけて仕事に従事しています。また今年度は「フィッシュ哲学」を導入し、職場環境を明るく、楽しいものになるよう取り組みを行なう予定です。

平成30年度の病棟目標は「多職種間の連携のもと、愛をモットーに患者さんのために質の高い医療を提供します」を掲げました。チーム医療として、医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、退院支援看護師等との連携をより密にし、患者さんに寄り添う看護に努めていきたいと思っています。

シリーズ

主任管理栄養士 蛇口さんからバトンタッチ!

ひと から ひと へ

職名：特任看護師 感染管理認定看護師

出身：盛岡生まれ 中高は奥州市

経歴：1986年医療局入局、県立中央病院を経て、2017年より県立胆沢病院勤務。2005年感染管理認定看護師資格取得。

趣味：音楽全般・バレーボール



ふくだ ゆうこ
福田 祐子

Q. 感染管理認定看護師として、どのような活動をしていますか？

A. 院内の患者さん・職員・ご家族や訪問者の方々を感染から守ることが、私の役割です。手指衛生やマスクの正しい着脱、環境整備などを、院内ラウンドを通じて見守っています。

Q. 現在、力を入れていることは何ですか？

A. 抗菌薬の適正使用についての活動を、医師・薬剤師・臨床検査技師と協力しながら行っています。一般の方々にも理解を得て、不要な抗菌薬は使用しない、細菌検査を実施して、適正な抗菌薬使用を促していきたいと考えています。

Q. 医療機関へひとことお願いします。

A. 医療・介護連携により、いろいろな感染症を持った患者さんが、病院・介護施設・在宅と移動せざるを得ない状況です。

医療を行う全ての場所で、感染対策の正しい知識と技術が求められています。感染対策に迷った時、感染症が多発して困った時には、お気軽にお問い合わせください。

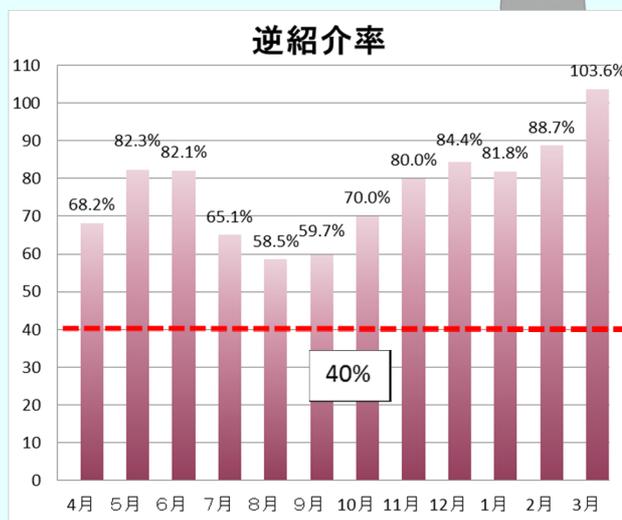
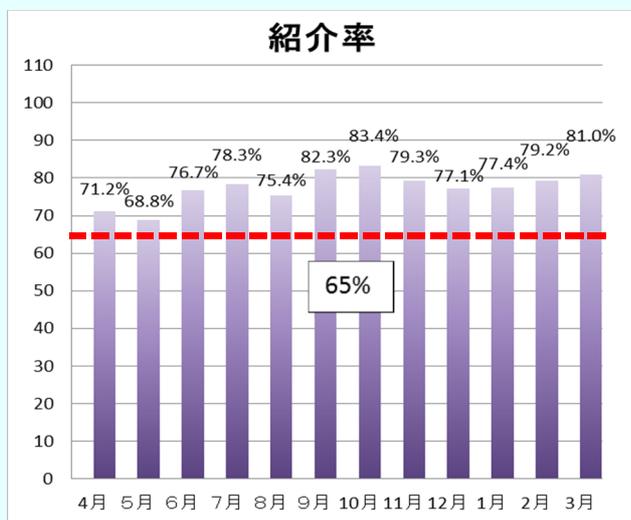
平成29年度 紹介率・逆紹介率の状況

当院は、平成26年12月1日付けで「地域医療支援病院」の承認を受けております。患者に身近な地域で医療を提供されることが望ましいという観点の元、地域の中核病院として各医療機関と適切な連携を図っていくよう努めております。そうした中で、紹介率、逆紹介率は、第一線の地域医療を担う、かかりつけ医を支援する一指標として用いられており、地域医療支援病院の承認要件ともなっています。

○地域医療支援病院承認要件

地域医療支援病院紹介率、逆紹介率がア～ウのいずれかを上回っていること。

	地域医療支援病院紹介率	地域医療支援病院逆紹介率
ア	80%	---
イ	65%	40%
ウ	50%	70%



皆様のご協力のおかげで、昨年度の紹介率・逆紹介率が承認要件を満たすことができました。今年度も患者様の紹介・逆紹介についてよろしくごお願いいたします。

お盆期間中の診療体制について

下記の期間、外来診療（全科）を休診し、当直医師による救急診療体制となります。

8月13日（月）～8月15日（水）

※救急のご紹介の際は、中央処置室にご連絡をお願いします。

-医師退職のお知らせ-

平成30年4月末

眼科医長

千葉 智恵美



岩手県立胆沢病院 地域医療福祉連携室

〒023-0864

岩手県奥州市水沢字龍ヶ馬場61番地

TEL 0197-24-4121

FAX 0197-24-4180（紹介センター専用）

URL <http://www.isawa-hp.com/>